2021 年 9 月 8 日　エルゴン・デイリー紙

ブッシ島住民・ＴＯTO による水環境プロジェクトへ感謝の意

ーワキソ県

ビクトリア湖に浮かぶブッシ島（ワキソ県）で行われた水環境プロジェクトに、住民は喜びの声をあげている。
安全な水へのアクセス向上と、環境保全を目的とした本プロジェクトはＴOTＯ株式会社による助成と道普請人（COＲE）による実施にて行われた。ＴＯＴＯは水回り製品を主とした日本の住宅機器製造会社である。本プロジェクトは、ＴＯＴＯのＣＳＲ活動の一環として、「ブッシ島４村での安全な水へのアクセスと環境保全・衛生啓発」と題して、2021 年 4 月から 2022 年 3 月までの間で行われている。

プロジェクトでは主に、雨水集水システムの設置、３小学校（グッドデイ小学校・ブッシジュニア小学校・ブッシペアレンツ小学校）での育苗場の整備、維持管理・環境ワークショップなどの活動を行い、ワキソ県ブッシ島ブッシ準郡グルウェ地区のコミュニティ、小学校などを対象としている。

プロジェクトは、生活用水・飲料水ともに安全な水へのアクセスが極端に困難であった 4 村 900 世帯以上、小学校の生徒約 3,000 人を対象としている。

近年ブッシ島では人口が急増しており、居住地の拡大・薪使用料の増加などに伴い、森林伐採も急速に進んでいる。

ブッシ準郡副事務長マビラ・リチャード氏は、今回のプロジェクトの開始時に準郡事務所にて、日本発国際ＮＧＯである道普請人との良好な関係と TOＴＯ環境基金からのこのような辺鄙な土地への支援に対し、感謝を強く語った。

マビラ氏は人口急増に伴う困難として、安全な水への低アクセスが水因性疾患の増加を引き起こし、その医療費が低収入層住民のさらなる貧困化を招くという悪循環を憂いていた。

道普請人ウガンダ事業統括の岩村由香氏は、関係各所に対し、ブッシ島を含むウガンダ全土において、地域への安全な水や環境問題に関する啓発活動を通し、コミュニティをより強固なものとしていくための活動を今後も続けていくと語った。

2021 年 9 月 8 日　エルゴン・デイリー紙

また、2021 年 4 月から続く本プロジェクトは、ブッシ島の住民に安全な水を供給するとともに、住民に雨水集水システムの建設手法と集水した水の有効な利用法を伝授することで、不衛生な水に頼ることなく生活できることを目標としていると語った。
続けて、道普請人の活動は、育苗場の建設や育苗の知識も広めることで、環境保全に対する意識を高めることも目標にしている。土壌保全活動・育苗活動を通して、持続的な土地利用が可能になるとともに、育苗が新たな収入向上の手段ともなるとも述べた。

2020 年 4 月から 2021 年 3 月まで行われた本プロジェクト 2 年目の活動は、“ジンガ島の安全な水へのアクセスと衛生向上、緑化促進”と題してジンガ教区ブガンガ村、ブカシ村、カアソ村、チノガ村を対象として行われた。

このプロジェクトでは、1,000 リットルの雨水タンクを地域住民用に、10,000 リットルのタンクをビショップ・カウマ小学校に設置した。小学校は、同プロジェクトの中で 50,000 本のフルーツなどの苗木を育てた。育苗場は小学校の他にチノガ村にも設置された。

プロジェクトによって 4 村合計 936 世帯およそ 4,680 人の安全な水へのアクセスが向上した。道普請人は、環境保護活動への意識向上のため、ビショップ・カウマ小学校で環境活動に従事した生徒・グループに対し、文房具と生理用品（50 人分）を寄付した。
育苗場の整備と管理指導は、ジンガ地区とブッシ島全体の環境保全を目的として活動した。

2019 年 4 月から 2020 年 3 月まで行われた 1 年目は、ブッシ地区とバラバラ地区のブゲラ村、カアパ村合計 446 世帯 2,230 人を対象として行われた。

この期間で、10,000 リットル雨水タンクが地域住民用と 2 小学校（ブッシ・モダン小学校、カレベ小学校）に設置され、ゴッド・イズ・グッド小学校では育苗整備が行われた。育苗は小学校の他に、村長の自宅などにも設置され、合計で 50,000 本の育苗に成功した。苗木は地域住民に配られ、それぞれ住民の所有する土地などに植林した。

（了）